

局長序

南部科学工業園区管理局 局長 陳俊偉

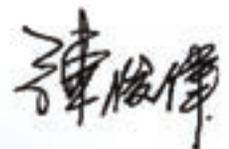
2007年は南部科学工業園区(以下南科と略称)にとって鍵を握る一年だった。この一年、南科チームは引き続き園の基礎建設に取り組み、南科に働く人々にとっていっそう快適かつ好ましい生産・生活環境を創出してきた。管理局は地方自治体と提携して積極的に産業の導入を進めているところである。

経営面において、2007年度の1兆9,001億円、就業人数は54,115人に達し、いずれも年頭に立てた「1兆7,680億円&52,000人」という目標をクリアした。また南科の光電産業が整備され、太陽光発電の供給体制が整った。集積回路産業も安定的に発展しており、バイオテクノロジー医療器材産業も高雄園区を拠点に成長をみせ、電信産業は電信技術センター及び大同電信がリードすることに連れてその形をみせてきた。

優質な生活を構築する面においては、コミュニティセンターが9月にオープンし、健康生活館も2008年4月にサービスの行列に加わった。それから第三期宿舍も2008年第2四半期から入居を受け付ける予定となっている。工商サービスセンター総理宴客型レストランは2008年第1四半期にスタートし、飲食、会食などの注文を受け付ける。国立南科国際実験高等学校も第2年度に入る。2008年度には高校部の第一回入学の受付を始める予定で、生活のあらゆる面でその機能は充実の一途をたどっている。

サービス品質における環境整備の面では、南科チームは、高雄園区に通じる中山高速連絡道工事で2007年度「第八回公共工事金質獎」土木工事部門施工品質優等獎を受賞しており、2008年度中に開通予定である。台南園区の資源再生センターは「2007年度事業廃棄物、再生資源清掃整理、資源減量回収再利用優良獎」特優、また環工センターは環保署「2007年度工業区専用下水道システム審査評価」で優勝するなど、南科チームの取り組みは各方面から高い評価を受けている。

南科開発からすでに10年、管理局の成立からも5年の歴史を経た。続々と人材および業者が隊列に加わり、共同して南台湾ハイテク産業集積の建設に邁進している。業者には後顧の憂いなきよう、住民には郷土の未来に希望がもてるよう、生活・生産・生態いずれの面でも最高の環境を実験すべく努力している。2008年度、南科管理局成立六年目にあたり、我々は「六六六」と題する目標を掲げた。就業人口六万人、年間営業額を今年6,000億元(2兆400億円)以上、2011年には3.4兆円を目標にして、南台湾のハイテク産業発展のために邁進してまいる覚悟で、世界との競争に勝ち抜くハイテク王国を台湾に築く。



標準工場に設けられた公共芸術—スバゲッティ彫刻作品